

昭和62年度 国立大学・学部附属学校等 教官海外教育事情視察に参加して —— 主視察国（アメリカ・イタリア・西ドイツ） ——

川 津 啓 義

I はじめに

この度国立大学・学部附属学校等教官海外教育事情視察派遣団（A団）に加わり、主視察国アメリカ・イタリア・西ドイツを訪れる榮譽に浴することができた。

10月17日に国際成田空港を出発し、5か国7都市の教育事情等を視察して、24日間にわたる長い視察旅行を終え、多くの収穫を得て11月9日無事帰国した。

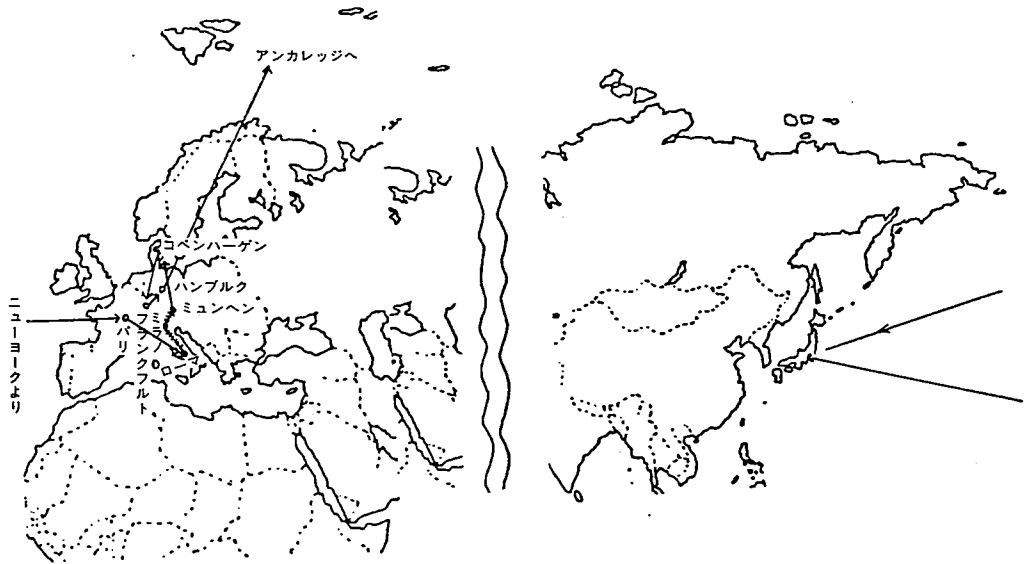
視察地は、アメリカ〈オーロラ・ニューヨーク〉、フランス〈パリ〉、イタリア〈ローマ・ミラノ〉、西ドイツ（ミュンヘン）及びデンマーク〈コペンハーゲン〉の各都市であった。その内、オーロラ・ローマ及びミュンヘンでは、それぞれ教育委員会を訪問し、その国の教育事情を詳しく聞くことができた。また、学校訪問によって、現場の先生方や児童生徒たちと親しく交歓し、生の声を聞く機会を得た。従って、この報告書はオーロラ・ローマ及びミュンヘンで見聞した教育事情について述べることになる。

この報告書の構成は、I章、はじめに。II章、視察コース・日程（延べ24日間の東回りの世界一周である。地転に逆らった飛行機旅であったので、厳しい時差ボケの体験をした。飛行時間延べ34時間44分、宿泊地7地区であった。）III章、三か国の教育事情視察、（アメリカ編、イタリア編、西ドイツ編に分け、それぞれのお国の学校教育制度、教育行政制度、教育課程などを記述した。「学校系統図」が示すように国によって教育制度の違いがよくわかる。また、地方によって多少の違いがあるので、オーロラ・ローマ及びミュンヘンの実情も載せた。24日間の日程を詳しく書くべきではあるが、紙面の都合上、3都市に限定して、学校訪問の報告と教育文化施設等の視察の様子を記述することとした。）IV章、教育事情視察を終えて（研修の旅を終えての印象記を記載した）である。

学校訪問で強く感じさせられたことは、当然のことながら、それぞれの国の学校教育の制度や内容はその国固有の歴史的・社会的事情及び国民性を背景として長い間培われてきたということである。それだけに、どこの国でも教育に携わる人達が自国の学校教育のあり方に強い自信と誇りを持って、児童生徒の教育にあたっていた。

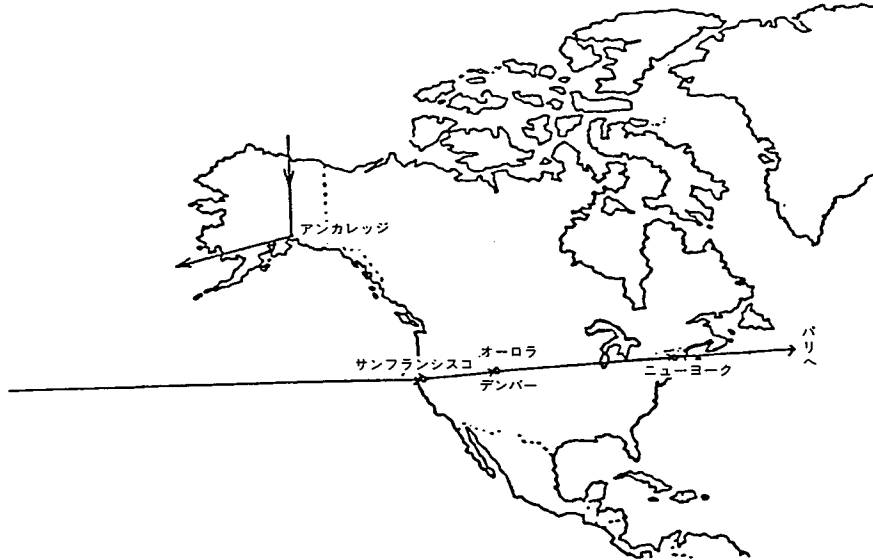
日本の教育について考えさせられたいくつかのことを挙げてみると、①教師自身明るく、自信と誇りを持っている。時間的にゆとりがあり、放課になれば自由に帰宅し、家庭研修ができる。全校集会、職員会議はほとんどない。学校教育ですべきことがはっきりして家庭教育がしっかりしている。1クラスの児童生徒数は25人を基準とし、（まだ、定員減の方向）個別指導が徹底している。従って、一人一人に行き届いた指導ができる。（生徒指導・管理も授業の中でできる。）②児童生徒の目はどこでも輝き、聞く態度ができていた。授業中での私語はなく、休けい時間に廊下を走ったり、騒いでいる光景は見られなかった。③学校の中も外もきれいであった。塵ひとつなかった。各教室は明るく、カラフルで、機能的に工夫されていた。

Ⅱ 視察コース・日程



日数	月 日	曜日	都 市 名	現地時間	交通機関	予 定	宿 泊 地
1	10月17日	土	東 京 発 サンフランシスコ着 サンフランシスコ発 デンバー着	20:00 13:10 15:00 18:20	JL 002 UA 346	所要：10時間10分 所要：2時間20分	デンバー泊
2	10月18日	日	デンバー (コロラド州)			事前研修	デンバー泊
3	10月19日	月	オーロラ (コロラド州)	デンバーからオーロラ間、バスにて往復 (片道約8km)		教育委員会訪問 学校訪問	デンバー泊
4	10月20日	火	オーロラ			学校訪問	デンバー泊
5	10月21日	水	デンバー発 ニューヨーク着	10:45 16:30	TW 870	所要：3時間44分	ニューヨーク泊
6	10月22日	木	ニューヨーク (ニューヨーク州)			教育文化施設等視察	ニューヨーク泊
7	10月23日	金	ニューヨーク発	18:25	TW 804	所要：7時間10分	機 中 泊
8	10月24日	土	パ リ 着	06:35		教育文化施設等視察	パ リ 泊
9	10月25日	日	パ リ (フ ラ ン ス)			教育文化施設等視察	パ リ 泊
10	10月26日	月	パ リ			グループ視察	パ リ 泊
11	10月27日	火	パ リ 発 ローマ着	09:00 10:50	AF 630	所要：2時間 教育文化施設等視察	ローマ泊
12	10月28日	水	ローマ (イタリア)			グループ視察 事前研修	ローマ泊
13	10月29日	木	ローマ			教育委員会訪問 学校訪問	ローマ泊

昭和62年度国立大学・学部附属学校等教官海外教育事情視察に参加して



日数	月日	曜日	都市名	現地時間	交通機関	予定	宿泊地
14	10月30日	金	ローマ			学校訪問	ローマ泊
15	10月31日	土	ローマ発 ミラノ着	13:00 18:10	列車 (629 km)		ミラノ泊
16	11月1日	日	ミラノ (イタリア)			教育文化施設等視察	ミラノ泊
17	11月2日	月	ミラノ発 ミュンヘン着	06:50 14:50	列車 (594 km)		ミュンヘン泊
18	11月3日	火	ミュンヘン (西ドイツ)			グループ視察 事前研修	ミュンヘン泊
19	11月4日	水	ミュンヘン			教育委員会訪問 教育文化施設等訪問	ミュンヘン泊
20	11月5日	木	ミュンヘン			学校訪問 グループ視察	ミュンヘン泊
21	11月6日	金	ミュンヘン発 コペンハーゲン着	13:25 14:45	SK 662	所要：1時間20分	コペンハーゲン泊
22	11月7日	土	コペンハーゲン (デンマーク)			教育文化施設等視察	コペンハーゲン泊
23	11月8日	日	コペンハーゲン発 フランクフルト着 フランクフルト発	09:55 11:20 13:20	SK 631 JL 434	所要：1時間5分 所要：16時間55分	機中泊
24	11月9日	月	東京着	16:40			

JL：日本航空

AF：エア・フランス航空

UA：ユナイテッド航空

SK：スカンジナビア航空

TW：トランス・ワールド航空

Ⅲ 三か国の教育事情視察

〈アメリカ編〉

○アメリカ合衆国、コロラド州（オーロラ）の教育事情

コロラド州の首都であるデンバーは、海拔1.6 kmの高地にあるため“Mile High City”と呼ばれている。黄金を求める人々がこの地域の最初の居住者で、1858年には、わずか60余の粗末な小屋と、州最初の酒場があるだけの村であった。金鉱に次いで、銀鉱が発見されるとデンバーは一躍ロッキー山脈地帯で一番重要な町に成長した。その後デンバーは大きく変貌をとげ、荒々しい西部の部落から西部きっての洗練された都会の一つに発展した。

今日のデンバーは東に果てしない大平原、西にロッキー山脈のそびえ立つ峰々をのぞむ交通の要所であり、この地域の商工業や文化、そして観光の中心地でもある。

・学校教育制度

教育の地方分権制がとられているアメリカ合衆国では、学校教育制度も地域によってかなり異なっており、全国共通の制度は存在しない。初等、中等学校をどのように編成するかは、地方教育行政機関が決定すべき事項とされている。最近の傾向として、伝統的な制度に代わって、5・3・4年制や4・4・4年制などをとる、いわゆるミドル・スクール（middle school）が徐々に増加しつつある。

・教育行政制度

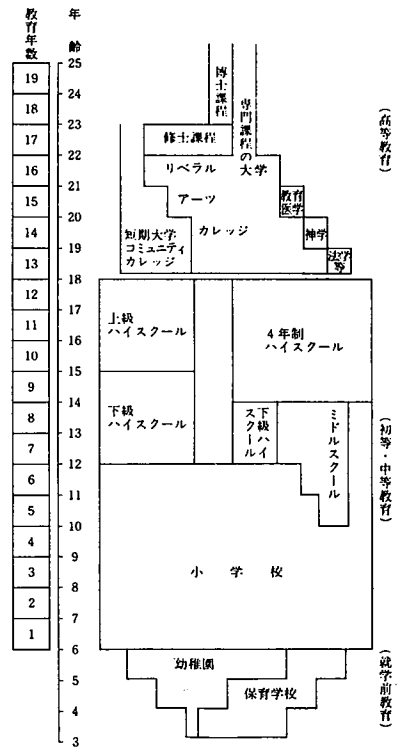
アメリカ合衆国では、連邦は教育を統制する権限を有せず、教育は州の専管事項とされている。州は州法に基づいて、公立学校の実際の運営に関する権限の大部分を地方教育行政当局（学区）に委嘱している。教育行政に関する基本的方針は州が定めるが、初等、中等段階では、教育の管理・運営は事実上地方学区の機能に属している。

・教授組織と学習形態

一般に、同じ年令の児童で一つの学年を構成し、毎年1回1学年ずつ進級させる制度をとっているが、最近では一定水準の学力を確保するために、州または地方が実施する基礎能力試験に合格しなかった児童・生徒に特別の治療教育を行い、所定の水準に達した場合のみ進級を認める傾向がみられるようになっている。また、個々の児童・生徒の適性・能力に合致した教育を行い、彼らの潜在能力を最大限に開発するとともに、学問的教育のみでなく職業・技術的教育をも併せて重視することが教育の重要な課題であると認識されるようになっている。

児童・生徒の知的能力の開発に努力を集中するあまり、

アメリカ合衆国の学校系統図



その人間性の全面的発達をおろそかにしてきたのではないかという反省がなされるようになった。そのため、中等学校を中心とする教育の改善が強く要望され、学校と社会の連携を強化し、教育内容・方法を多様化させて、個別化された教育を徹底されるような教育組織と学習形態が工夫された。

①マルチユニットプラン（教室、学年区分を廃し、無学年制による能力別学習を徹底させる方法）、②モデュラスケージュリング（授業時間の単位に変化をもたせ、児童・生徒の要求に即した流動的な指導を目指すもの）、③オープンスクール（校内に広い空間の学習センターを設けて、チームティーチング、チュータープログラム〈個別学習〉により、児童生徒の能力・要求に応じた教育が行われる）、④フリースクール（生徒の学習コース・学習時間数に選択の幅をもたせ、生徒自らコースを設定したり、特別コースを要求できるようになっている）などがそれである。

・オーロラ地区の学校教育

オーロラはコロラド州の首都デンバーから東へ約8 kmほど行ったところにある。人口約7.4万の郊外住宅都市である。小・中・高校を合わせて42の公立学校があり、児童・生徒数約26,000人、コロラド州177の中で5番目に大きい学区である。

(1) 教育制度について

コロラド州の学級定員は多くても32人と定めている。また、オーロラ地区では、幼稚園（1年）から高校1年までを義務教育と定めている。

小 学 校

幼稚園（5才）～5年生（11才）

中 学 校

6年生（11才）～8年生（14才）

高 校

9年生（14才）～12年生（18才）



オーロラ地区教育委員会での話し合い

(2) オーロラ地区の教員について

業績の上がらない教員は免職にしたり、研修を義務づけたりしている。研修については、先輩教師が若い教師に教材研究・指導法を教える。先輩教師にとっても、それを通して研修していくことになる。研究の足りない教員は、大学で5単位取得（放課後や夜間授業あるいは、夏季休業中の集中講義）してくることを義務づけている。

(3) オーロラ地区の学校教育

- ① 授業日数 177日（8月26日～6月の第1週まで）2学期制だが、それをまた2つずつに分けている。（4学期制のようなもの、1学期当たり42～45日間、小中高校共通）
- ② 週5日制、1日6時間授業
- ③ 始業 7:30～終業 15:00（教員 7:00～15:15）
- ④ 地区内の公立小中高校は、それぞれ同じ教育課程・教科書・指導法で指導に当たっている。
- ⑤ どの学校でもコンピュータ教育を行っている。

5年程前から行っていて、
 (以前からも取り入れていた
 が) 幼稚園から高校までカリ
 キュラムの中に組み入れ、ソ
 フトウェアも指導書も作られ
 ている。(公立学校には2,000
 台以上のコンピュータがある。)



オーロラ地区教育委員会前で

〈第1日目〉

10月17日(土) 天候 晴 気温 22℃				
宿泊地	成田 — (サンフランシスコ) — デンバー 宿泊 機中			
日程	文部省 — 成田 — サンフランシスコ — デンバー			
時分	集合	10:00 (文部省)	出発	20:20 (成田発)
10:00	文部省6階会議室に集合 事前研修			
13:30	文部省発 (貸切バス)			
14:30	成田空港到着			
20:00	成田空港出発 (サンフランシスコ)			
21:20	機内での夕食			
?				
11:30	機内での朝食、大平洋上空 (16時間の時差)			
13:12	サンフランシスコ到着			
15:00	サンフランシスコ出発 (デンバーへ)			
18:20	デンバー到着 (ダウタウンホテルへ)			

・時差ボケ初体験

飛行機のトラブルがあったのか、JAL 002
 便は2時間遅れの20時に国際空港成田を飛び立
 った。21時20分機内での夕食となった。パン、
 ビフテキ、野菜など、なかなかの豪華版である。
 それに、ソーメンなるものもあり、食欲をそそ
 った。中国美人スチュワーデスもいて注目的
 であった。寝付かれず、うとうとしていたら朝
 食とのこと、窓外は既に昼近くAM11時30分
 であった。



サンフランシスコ空港待合室

<第2日目>

10月18日(日) 天候 晴 気温 2℃			
宿泊地	デンバー	宿舎	ホリディ・イン・ダウンタウン
日程	午前 事前研修	午後 ツアー(レッド・ロック公園、セントラルシティ)	夜 ディナー
時分	起床 8:00	朝食 8:30	集合 9:00
9:00	係打ち合わせ		
10:00	全体打ち合わせ(明日の「教育委員会」、「学校訪問」の事前研修会)		
13:30	ホリディ・イン発、教育文化施設等見学		
⋮	<ul style="list-style-type: none"> ・レッド・ロック公園 ・セントラルシティ 		
18:50	会食(ブローカーレストラン)		
21:00	ホリディ・イン帰着		

デンバーの夕日は美しかった。道路は広く、家々は整然としていて豊かな街であった。アメリカの東西を結ぶ中継地点として軍事的にも重要な地となっている。

ロッキー山脈を望むこの地は、冬山のスキー、夏はゴルフと観光都市としてこれから有望である。レッド・ロック・パーク(赤い岩)は、巨大な岩山をそのまま利用した「自然野外音楽堂」であった。ロッキー山の麓に近づくにつれて、山は険しくなった。一攫千金を夢みた人々に思いを馳せつつ、2,500Mに位置するセントラル



レッド・ロック・パーク

シティに着く。

<第3日目>

10月19日(月) 天候 晴 気温 2℃			
宿泊地	デンバー	宿舎	ホリディ・イン・ダウンタウン
日程	午前 オーロラ市教育委員会	午後 学校訪問(班別)	夜 休息
時分	起床 7:00	朝食 7:30	出発 8:30
8:30	ホリディ・イン発		
9:00	オーロラ市公立学校教育委員会着		
9:10	同教育委員会からの説明及び質疑		
12:00	昼食		
13:00	各班に別れ学校訪問		
16:00	同教育委員会着		
17:00	ホリディ・イン帰着		

◎学校視察

WEST MIDDLE SCHOOL (中学校)

1. 訪問日 昭和62年10月19日(月) PM 12:30 ~ 15:00

2. 学校の概要

(1) 所在地 10100 E 13 th Ave. Aurora
Co 80010

(創立1950 校長名 John Basham)

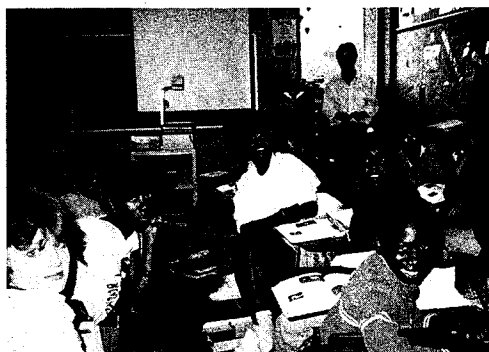
(2) 教員数 30名(男8名、女22名)

他職員5名、その他10名

(3) 生徒数 470名(男230、女240)

3学年 40学級

(4) 授業時数 週30時間



授業風景

3. 視察の概要

街路樹の黄葉の美しい目的地ウエストミドルスクールに到着した。女性教務主任の出迎えを受け、応接室に通された。郊外の地域発展のために建てられた学校で、6～8年までの3学年制である。少数民族が50%おり、その内60%は給食費の免除者である。しかもこの生徒達は、保護者の仕事の関係で転入・転出が激しいとのことである。学校の教育方針は「個の能力に応じた指導」ということで、オープン・スペースを使っての個別学習が行われていた。生徒の目は輝き、生き生きしていた。能力別の資料がいくつか置かれていたが、それをうまく利用して自分で学習を進めていた。

私たちと生徒の代表による懇談会が設定されていて、生徒たちの生の声を聞くことができた。

「日本の生徒たちは、どんな遊びをしていますか」、「アメリカのどんなことに興味を持っていますか」など、やつきばやに質問され、その答えに四苦八苦させられた。

〈第4日目〉

10月20日(火) 天候 快晴 気温 0℃			
宿泊地	デンバー	宿舎	ホリディ・イン・ダウンタウン
日程	午前 学校訪問	午後 学校訪問	夜 レセプション
時分	起床 6:00	朝食 7:00	出発 7:50
7:50	ホリディ・イン発		
8:15	オーロラ市教育委員会着		
9:00	各班に別れ学校訪問(コロンビア中学校)		
12:00	" (トルゲート小学校)		
16:40	ホリディ・イン帰着		
18:30	レセプション		
21:10	終了		

◎学校視察

^{コロンビア}
COLUMBIA MIDDLE SCHOOL (中学校)

1. 訪問日 昭和62年10月20日(火) AM 8:50 ~ 12:00

2. 学校の概要

(1) 所在地 17600 E. Columbia Avenue.
Aurora Colorado 80013

(創立 August 1981 校長名 Ponald A.
Hultguist)

(2) 教員数 57名(男24名、女33名)
他職員4名、その他23名

(3) 生徒数 905名(男476、女429)
3学年 29学級



コロンビア中学校前で

3. 視察の概要

オーロラ切っの新しい中学校で、ツートンカラーのラインが入ったモダンな校舎であった。校舎内も漸新な工夫がいたるところに施されており、廊下はじゅうたん敷きで広く、各部屋が機能的に設計されていた。教師が自由を語ったり、お茶を飲んだりできる憩いの部屋もあった。専門のカウンセラーが各学年に配属され、行き届いた生徒指導のシステムができていた。それぞれの教師の仕事が、はっきりと分業されていて、自分の仕事を全うできるようになっている。部屋は実に明るく、カラフルである。

^{トールゲイト}
TOLLGATE ELEMENTARY SCHOOL (小学校)

1. 訪問日 昭和62年10月20日(火) PM 0:30 ~ 4:00

2. 学校の概要

(1) 所在地 701 South Kalispell way.
Aurora Colorado 80017

(創立 August. 1981 校長名 David S.
Prok, Principal ; Lois C. White. Assist
ant Principal)

(2) 教員数 30名(男4名、女26名) 他職員2名
その他17名(常勤6、非常勤11)

(3) 生徒数 639名(男317、女322) 6学年 25学級



コンピューターの学習

3. 視察の概要

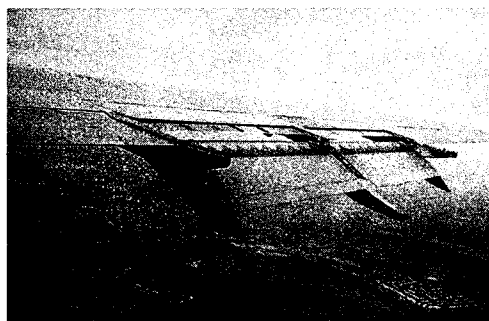
新興住宅の中に建つ近代的な校舎である。プロック校長と女性副校長の握手の歓迎を受けた。早速、給食室へ案内され、子どもと一緒に昼食をとった。5年生の児童会役員の児童が各教室を案内してくれた。片言の英語で結構通じるもの。随分英会話の勉強になりました。学区の中に39の異った言語があり、その克服に教育の重点を当てていた。アメリカの一面を知った思いである。

〈第5日目〉

10月21日(水) 天候 晴 気温 2℃			
宿泊地 ニューヨーク		宿舎 ニューヨーク・ペンタ・ホテル	
日 程	午前 機 内	午後 機 内	夜 ニューヨーク(自由行動)
時 分	起床 7:30	朝食 8:00 (トランク廊下に出す8:30)	出発 9:00
9:00	ホテル発		
9:35	デンバー空港着		
11:15	離 陸		
12:40	機内にて食事		
16:30	ケネディ空港着(デンバーとの時差2時間)		
18:10	ペンタ・ホテル到着		

黄葉したニセアカシヤに陽の光が射して実に気持ちのいい朝である。名残りを惜しみながらデンバーの街を後にした。ブルー・スカイと高層ビルがよくマッチした明るい美しい街であった。

夜のニューヨークでは仲間と二人でエンパイヤー・ステートビルを見ながらブロードウェイを歩いた。道路は汚れ、人は足ばやに行き来する。そして、イエロー・タクシーがよく目についた。ニューヨークは、まさに躍動している感じである。45ドルを払って、「コーラス・ライン」を観賞した。ここはマイケル・ジャクソンを育てた劇場でもある。

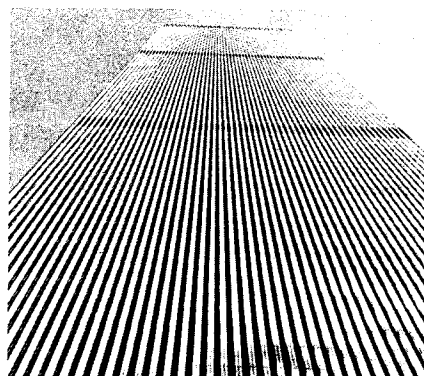


機内から見たニューヨーク

〈第6日目〉

10月22日(日) 天候 快晴 気温 10℃			
宿泊地 ニューヨーク		宿舎 ニューヨーク・ペンタ・ホテル	
日 程	午前 世界貿易センター・自由の女神像	午後 国連本部、市内めぐり	夜 自由行動
時 分	起床 7:30	朝食 8:00	出発 9:00
9:00	ホテル発(教育文化施設等視察)		
9:30	世界貿易センター		
10:40	自由の女神像(フェリーで見学)		
13:50	国連本部		
14:40	メトロポリタン、オペラ・ハウス		
15:00	ウエストサイド、ハーレム街、イーストサイド		
16:10	ホテル帰着		

ニューヨークの一日目は、バスで文化施設等を視察した。まず、高層ビルの樹立に驚き、さすがにビルディング誕生の地であると思った。高層ビルの立ち並ぶ中にひとときわめだつエンパイヤー・ステートビルの雄姿を見ることができた。あの「キングコング」で一躍有名になったエンパイヤー・ステートビルは、アメリカの象徴として、どれだけアメリカ人の心に勇気と力を与えたであろう……などと思ったりした。自由の女神に招かれ、自由を求めてアメリカ大陸に渡ってきた当時の人々の心意気を思いながら、しだいに遠ざかる自由の女神をフェリーから見入っていた。



世界貿易センター

<第7日目>

10月23日(金) 天候 晴 気温 12℃			
宿泊地	機 中 (ニューヨーク → パリ)		
日 程	午前 自由の女神像		午後 メトロポリタン、ケネディ空港へ
時 分	起床 8:40	朝食 9:00	出発 9:30
9:30	ホテル出発 (同僚の高光氏と2人で視察、自由行動)		
10:00	バッテリー・パーク (地下鉄を利用)		
10:40	バッテリー・パークより観光船に乗る		
11:00	自由の女神像見学		
12:00	バッテリー・パークより地下鉄		
13:00	メトロポリタン 散策		
15:00	ホテルペンタの玄関ロビーに集合 (タクシー 4.45ドル、チップを含め6ドル払う)		
16:00	空港行きのバス発車		
16:40	ケネディ空港到着 (18:40パリへ向けて飛行開始)		

今日はアメリカ大陸を離れる日である。雄大なロッキー山脈、あの巨大な岩壁、広大な高原、今にもそのあたりからインディアンが飛び出し、騎兵隊がラッパを鳴して現われてくるような錯覚に襲われた。セントラル・シティでは、西部劇の主人公にでもなった思いに浸った。また、ニューヨークでは、エンパイヤー・ステートビルに上った。その夜景は驚嘆の一語に尽きる。ハドソン川にかかる吊り橋はイルミネーションに輝き美しかったし、ブロード・ウェイ通りは光り輝いていた。思いを残しながら、大西洋横断の旅へ出発である。明日はパリ、夢は一段と広がっていく。



世界貿易センターの
屋上から見た自由の女神像

〈イタリア編〉

○ イタリア、ローマの教育事情

イタリアの学校教育制度の目的は、基礎的な教養及びなんらかの職業における初歩的な能力を身につけ、民主的な社会に全面的に参加することのできる市民を育成することにある。

幼稚園教育、初等教育、中等教育、大学教育の4段階の校種があり、初等教育の5か年と中等教育のうち前期中学校の3か年が義務教育となっている。この8か年の義務教育機関は、無償である。ただし、教科書の無料配布は小学校だけである。国立諸学校の教育課程は、全国一律に厳格に定められており、卒業生の質は一定に保たれるようになっている。私立学校は宗教系と非宗教に分かれ、独自の教育を行う権利が保障されている。ただし、政府の補助金を受けることは禁止されている。(ここで、国立というのは、全て公立である。日本のような市立や町立・県立などの学校は、特殊学校など一部の例外だけである。)

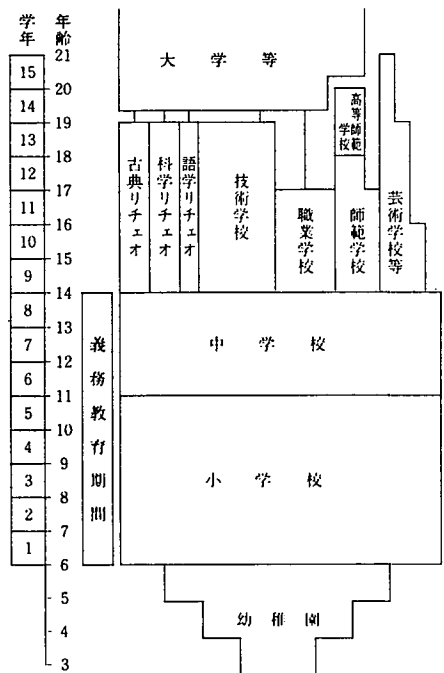
幼稚園教育は、近代教育の祖と言われるモンテッソーリ・マリア(1870~1952)の影響が大きい。家庭と協力して子どもの人格形成を援助し、義務教育就学への準備を行うとし、子ども個人に合った仕事を与えながら、さらにその子の能力を伸ばすこととしている。なお、幼稚園の費用は無償である。

イタリアの学校系統図

幼稚園の教員の養成は、3年制の師範学校で行われる。初等教育の教員は、4年制の師範学校とそれに続く2年間の中等教育に位置づけられた専門訓練を受けて養成される。中等教育の教員は、大学卒業資格をもち、さらに、教員試験にパスしなければならない。その教員採用の方法も、最近大幅に改革されている。つまり、採用候補者は面接と筆記試験にパスした後、一定期間を試用期間として現場に入り、その適性を見る。結果の判定は各採用学校で行われる。

学年度は、いずれも9月に始まり、翌年の6月に終わる。なお、一クラスの定員は、25人である。7月と8月は夏期休暇となるが、7月中は家庭の事情で家にいられない子どもは、各地区の学校に集められ、地域別の夏期学校に通っている。

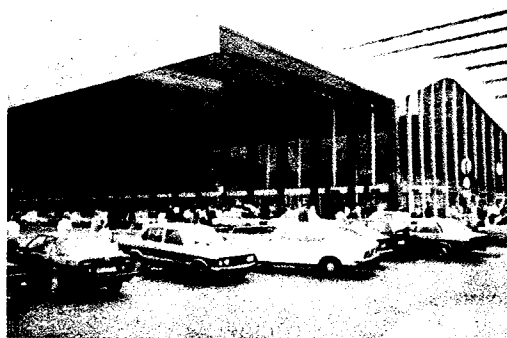
イタリアの学校は、北部の諸都市を除けば、小学校は半日で、午前と午後の2部交替制をとっているのが普通である。



〈ローマ市 教育監督局〉

ローマ市の中心からやや西方にテベレ川が蛇行し、その西側の小高い丘にバチカン市国がある。ローマ市の教育委員会は、このバチカン市国より東方 3.5 km の地点にあるテルミニ駅（映画「終着駅」で名高く、すべての道はローマに通じることを立証している駅）の近くにある。

- ・ 小学校、中学校とも、午前中の学校と給食を含めて午後 4 時ごろまである終日の学校がある。後者は両親が働きに出ている家庭の子どもたちが通っている。高等学校には普通科がなく、自然科学系や文化系（ラテン語、英語など）などに別かれている。大学への進学は入試ではなく、高等学校の卒業証明書があれば、だれでもどのコースでも進学できる。



テルミニ駅

- ・ 宗教教育については、宗教を必修とするかどうかをバチカン市国と当教育委員会で話し合った結果、バチカンのキリスト教を柱とすることになった。その決定はあくまでも両親にあるが、現在、ローマ市の学校の92%がキリスト教を必修教科としている。残る8%はキリスト教の履習を拒否しているので、その単位は他の教科におきかえて履習させている。もちろん、この宗教教育は幼稚園から高等学校までのすべての学校が対象となっているが、小学校よりも高等学校へ進むほどその履習単位は少なくなっている。



サンピエトロ大寺院

- ・ 教師には学校の教育内容が任されている。（例えば、教科書の選択が各教師に任されていて、教室ごとに教科書が異なる場合がある。もちろん、教科書は国の検定の中から選ぶものである。）中学校から高等学校への進学率は、ローマ市で80~90%であるが、全体的には進学率は80%よりずっと下がっている。しかし、すべての地域で、子どもの要望に応じて学習がすすめられるよう工夫されている。また、1学級の定員は25名をこえないよう配慮され

ているが、特に、障害児教育については4人の生徒に教師1名ほどの割合にしてある。

- ・ 教員の勤務時間は、小学校で8:30~16:30（半日の場合は、8:30~12:30）、中学校・高等学校8:30~13:30（終日の中学校の場合、8:30~16:30）で、1日平均小学校では5時間以上、中・高等学校では2時間ほど授業を受けもっている。勤務時間は一般の会社関係に比べ、3分の2ほどであり、給与もその割合で低いと考えてよい。だいたい小・中学校で月平均100万リラ（日本円で約11万円）、高等学校で月平均130万リラ、学校長で200万リラほどである。

<第11日目>

10月27日(火) 天候 曇り後晴 気温 25℃			
宿泊地	ローマ 宿舎 メトロポール		
日 程	午前 機 内	午後 古代ローマ遺跡群視察	夜 自由行動
時 分	起床 5:25	朝食 6:20	出発 6:30
6:30	ホテル発(メルキュール・ポルト・ド・ベルサイユ<パリ>)		
7:10	シャルル・ド・ゴール空港着		
7:20	パスポート審査		
9:19	エアーフランス機離陸		
10:56	レオナルド・ダ・ヴィンチ空港着陸		
11:42	バスに乗車(現地生活についての説明と諸注意)		
12:55	昼 食		
13:50	古代ローマの遺跡群視察(コロッセオ、ヴェネツィア広場、パラチーノの丘、トレビの泉、サンピエトロ大寺院)		
16:30	メトロポールホテル到着		

旧ローマ市内は、4km四方を城壁で囲まれ、その中に多くの遺跡群がある。地下2~3m掘ると、どこにでも古代ローマが現われてくる。広場や噴水がいたるところに作られ、トレビの泉やムッソリーニが大演説をしたというヴェネツィア広場、そして、映画「ベンハー」の壮大なスペクタクルを演じたパラチーノの丘を見学した。「ローマの休日」のスペイン広場、「終着駅」のテルミニ駅など映画と重なって身近に感じられた。約600人の聖職者が住むヴァチカン市国も見ることが多かった。



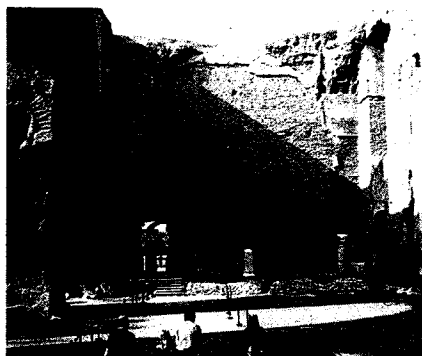
コロッセオ

<第12日目>

10月28日(水) 天候 晴 気温 25℃			
宿泊地	ローマ 宿舎 メトロポール		
日 程	午前・午後 自由行動、事前研修会		夜 ナイトツアー
時 分	起床 7:45	朝食 8:30	出発 9:00
9:00	ホテル発(自由行動) ・ヴェチカン美術館 ・カラカラ浴場 ・カタコンベ(地下墓地)		
17:00	事前研修会		
20:00	ナイトツアー(「カンツォーネ」「オーソレミヨ」など聞き浸る。23:00過ぎホテル着)		

道路という道路は駐車場と化し、車であふれていた。いざ車に乗って出る時はどうするのか不思議なくらいである。団長、副団長、班長の各先生と植田さん（添乗員）はあいさつを兼ねて大使館に赴く、一等書記官小寺百合さんと明日からの学校訪問の打合せである。

ヴァチカン美術館では、システィナ礼拝堂のミケランジェロ作による大壁画「最後の審判」、天井には、「アダム・エヴァアの創造」「ノエのいけにえ」などが描かれていた。ダイナミックな迫力から作者の息づかいが伝わってくるようであった。



カラカラ浴場

<第13日目>

10月29日(木) 天候 雨 気温 23℃			
宿泊地	ローマ 宿舎 メトロポール		
日程	午前 教育委員会訪問		午後 小学校訪問
時分	起床 7:30	朝食 8:30	出発 9:20
9:20	ホテル発		
10:55	ローマ市教育委員会訪問		
12:50	昼食		
14:00	エレメンタール小学校訪問		
17:20	ホテル帰着		

◎学校視察

TRILUSSA ^{チユルリフサ} SCUOLA ^{スクリオーラ} ELEMENTARE ^{エレメンタール} (小学校)

1. 訪問日 昭和62年10月29日(木) PM 2:00 ~ 4:30

2. 学校の概要

- (1) 所在地 Via Anagni 48. Rome
(創立 1967 校長名 Domenico Rubinacci)
- (2) 教員数 66名(男3名、女63名)他職員1名
その他4名
- (3) 生徒数 614名(男303、女311)
5学年 35学級
- (4) 授業日数 半日制 週24時間
終日制 週40時間



教室の子どもたち

3. 視察の概要

終日学級 8:20 ~ 16:30 と半日学級 12:30までとがある。さらに、16:00 ~ 18:00、18:00 ~ 20:00を選択して学校に来る児童がいる。いずれも家庭の都合、教育方針等により親が選択することになる。

障害児が1名入級すると学級定員は20名となり、2名入級で18名、重度の場合はマンツーマンとなる。障害児教育に国は力を入れており、それにあたる教員は専門の研修と資格が必要である。

児童個々に応じた教育ということで、かなり担任教師の独自性が活かされていた。

<第14日目>

10月30日(金) 天候 晴 気温 25℃			
宿泊地	ローマ 宿舎 メトロポール		
日 程	午前・午後 学校訪問		夜 レセプション
時 分	起床 7:30	朝食 8:20	出発 9:00
9:00	ホテル発(学校視察)		
10:00	スクオーラ、エレメンタール、ビンイツヤ、ムラウータ(小学校)		
12:30	昼 食		
15:15	ヴォナロッチィ(中学校)		
17:30	ホテル帰着(スペイン広場へ行く)		
20:00	レセプション		

◎学校視察

SCUOLA ELEMENTARE VIGNA MURATA (小学校)

1. 訪問日 昭和62年10月30日(金) AM10:00 ~ 12:00

2. 学校の概要

- (1) 所在地 Via Dirago 108. Rome
(創立 1980 校長名 Rocco Carriero)
- (2) 教員数 49名(男1名、女48名) 他職員4名
その他20名)
- (3) 生徒数 600名(男280、女320)
5学年 25学級
- (4) 授業日数 週35時間(実験5時間)



下校風景

3. 視察の概要

1980年に創立された新設校で、ローマ市のモデルスクールに指定されていた。野鳥の保護区として自然環境に恵まれていて、施設設備の充実とその工夫がいたるところにみられた。3年生(18名)の国語の授業参観をしたが、児童の読みと書く力の確かさに感心した。ここでも、個に応じた教官を重視するところから、カリキュラムの編成など担任の力量にかなり任されているようである。

BUONARROTI (中学校)

1. 訪問日 昭和62年10月30日(金) PM 3:15 ~ 5:10

2. 学校の概要

- (1) 所在地 Rome-Via Campania 63
(創立 1890 校長名 Sapa Tognetti
Burigana)
- (2) 教員数 82名(男10名、女72名) 他職員 4名
その他10名
- (3) 生徒数 540名(男300、女240)
3学年 26学級
- (4) 授業時数 週30時間(実験4時間)



中学校の先生方と



レセプションでの交流

3. 視察の概要

この学校の週の時間を見るとイタリア語7、地理と歴史で4、数学、科学、技術が各々3、美術、音楽、体育が各々4、宗教(カトリック)が1、外国語3の計30時間である。その内、宗教の履修は自由で、外国語は英語、フランス語、ドイツ語の内から1か国語を必修としている。生徒の98名は宗教を履修し、約80%の生徒は英語を選択していることである。タントゥーク副校長の心遣いで、苦味のしっかりきいたイタリアンコーヒーのエプレッソのもてなしを受けた。

<第15日目>

10月31日(土) 天候 晴後曇り 気温 14℃			
宿泊地	ミラノ 宿舎 スプレンドイド		
日程	午前 自由研修		午後 列車でローマからミラノへ
時分	起床 7:00	朝食 8:00	出発 12:00
8:30	自由研修、カタコンベ(地下墓地)		
11:30	荷物をドアの外へ出す		
12:00	ホテル発		
13:05	テルミニ駅発(15:25 フィレンツェ、16:30 ボロニヤ)		
18:20	ミラノ駅着		
19:00	ホテル到着		

今日は、ローマ滞在最後の日である。半日の自由研修を利用してカタコンベ（地下墓地）へ行くことにした。旧ローマ帝国の城壁を出るとアッピア街道である。両側には石づくりの高い壁と石畳が続いている。かつてローマ軍が出征し、凱旋したであろうこのアッピア街道である。石畳を走る馬車の音が今にも聴えてくるようであった。しばらく行くと広大な緑の敷地があった。牧場や畑になっているが、ここがカタコンベである。この下に秘密の地下集会所・墓室があるとは誰も気付かないであろう。墓室には、互いに信者であることを確か合う暗号の「魚の絵」が刻まれていた。



ミラノの某高級レストランにて

<第16日目>

11月1日（日） 天候 霧雨のち曇 気温 13℃			
宿泊地	ミラノ 宿舎 スプレンドイド		
日程	終日 教育文化施設視察		
時分	起床 7:30	朝食 8:00	出発 9:00
9:00	ホテル発（教育文化施設視察）		
9:20	サンタ・マリア・デッレ・グラッツイエ教会（「最後の晚餐」鑑賞）		
10:25	スフォルツェスコ城		
10:45	ラ・スカラ座広場、ヴィットリオ・エマヌエーレ二世ギャラリー		
10:55	ドゥオーモ大寺院		
11:20	自由行動（昼食）		
13:30	レオナルド・ダ・ヴィンチ科学技術博物館		
17:00	ホテル帰着		

ミラノの朝は霧雨になった。レオナルド・ダ・ヴィンチの有名な壁画「最後の晚餐」はグラッツイエ教会の一室にあった。修復中のため、十分には見られなかったが初めて対面した感動は忘れることはできない。

スカラ座前からエマニエル二世ギャラリーのある大アーケードを通り、ドゥオーモ大寺院を訪れた。イタリア・ゴシックの実に立派な建物であった。日曜日ということで、中ではミサが行われていた。また屋根の上が展望台になっていて、エレベーターで上がり、目の当たりにゴシック建築を見ることができた。



ドゥオーモ大寺院

〈西ドイツ編〉

○ドイツの教育事情

ドイツ人は、貴重面で正確で完全主義的な面が強いといわれている。そういわれると私たちの身近に見られる自動車や機械器具、日常使われている刃物等にも、確かにその国民性が見られるようである。

西ドイツの教育行政は、連邦共和国基本法により各州の権限とされており、各州はそれぞれの歴史的社会的事情をもとに独自の法令を作り行政を行っている。連邦段階で統一された改革案が出されても、各州の事情でその案が取り入れられたり、取り入れられなかったり、または、一部修正されて実施されたりすることもあるという。しかし、各州文部大臣常設会議、各州の州間協定、連邦・州教育計画委員会等によって学校制度の全国的な統一性が図られるようにしているとのことである。また、現在各州において、就学前教育の制度化・義務教育年限の延長の立法化及び中等教育の再編成等学校制度等の改革が進められている。

・初等教育

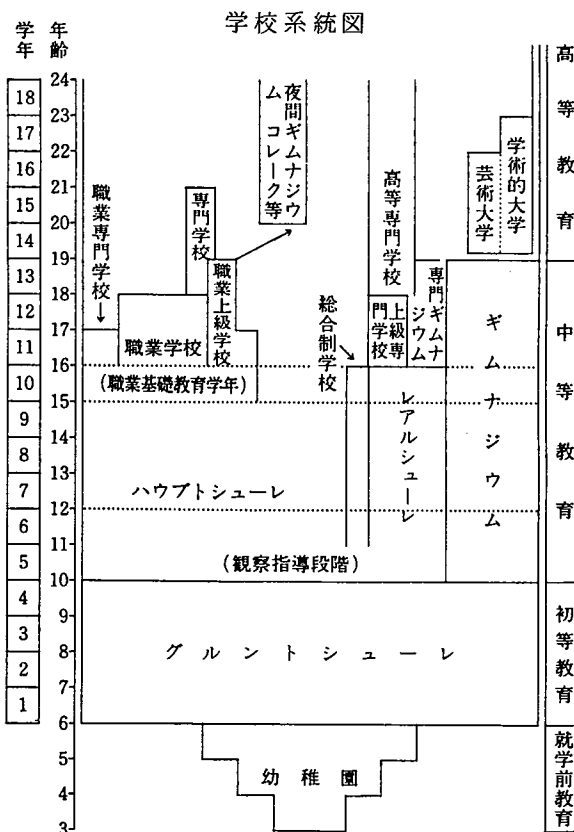
グルントシューレ (Grundschule 基礎学校)、4年制の義務教育で、いわゆる日本の小学校にあたり、6歳～11歳の子どもが通学する。すべての子どもに共通な教育がほどこされる。

西ドイツの学年度は8月1日に始まり7月31日までである。各年の6月30に満6歳になっている子どもは就学の義務が生じる。その中で、7月1日から12月31日までに満6歳になる子どもは、学校長がその子どもの就学する準備(心身の)ができていると認めるならば、その年度に就学できる。

・中等学校

(1) ハウプトシューレ (Hauptschule 主要学校)

この学校に入学する子どもは、グルントシューレ修了者のうちの約50%程度である。修了者には「修了資格」が与えられる。その後、職業専門学校(定時制)に就学することになる。



(2) レアルシューレ (Realschule 実科学校)

この学校への入学者は、基礎学校入学者の約30%程度であり、修了者には「中級修了資格」が与えられる。また、上級専門学校やギムナジウムに転学することもできる。修了者の多くは、中級技術者、公務員、管理者等になる。

(3) ギムナジウム (Gymnasium 高等学校)

この学校への入学者は、グルントシューレ修了者の約20%程度である。修了者には「大学入学資格」が与えられるが、卒業試験と兼ねて行われ、その合格者は約50%といわれる。

(4) ゲザムトシューレ (Gesamtschule 総合制学校)

この学校は、ハウプトシューレ、レアルシューレ及びギムナジウムの各教科の調整・統合による新タイプの学年を修了すれば、「中級修了資格」が与えられる。

以上のような初等・中等教育制度であるが、中等教育の最初の2年間も「観察指導段階」として、能力・適性に応じて他の学校へ転学できる措置も講じられている。なお、義務教育修了後いかなる学校にも進学しない者に対しては、職業教育履習の義務が課せられている。

○西ドイツ・ミュンヘン市教育委員会

・就学について

6月30日までは満6歳を迎えたものは9月から小学1年に入る。12月31日までに満6歳を迎えるものは親の希望があれば小学1年に入れる。ただし11月30日まで、小学校に通った様子によっては幼稚園に戻ることもできる。

・フォールシュリッシュ・アインリッヒツウンゲン (就学前の教育組織)

託児所……1～3歳の子どもを預かる。幼稚園……3～5歳の子どもを預かる。3歳で幼稚園に行かせるのは8%である。学童用の幼稚園……グルントシューレに入ったがついていけない子どもをさらに一年預かる程度。

・グルントシューレ (基礎学校) 第1～4学年 (6～9歳)

小学校に当たる初等教育であり、6～9歳の4年間就学する。今は人間性を重視した方向で教育が進められているが、卒業後ギムナジウムへ入りたい希望が多くなったことが、その準備期間として成績が重視されてきて、子どもたちにとってかなり厳しいようである。

・中等教育

中等教育機関としてギムナジウム (高等学校)、レアルシューレ (実科学校)、ハウプトシューレ (主要学校) があり、ギムナジウムへ入る時のみ成績が関係してくる。

ギムナジウム (〈高等学校〉第5～13学年〈10～18歳〉) は、大学進学のためのコースの学校であり、グルントシューレからミュンヘン市では56%行っている。(バイエルン州)としては30%) このギムナジウムに入るには3つの方法がある。①第4学年 (グルントシューレ) で先生からのギムナジウムに行けると言う証明をもらう。②第4学年でよい成績をとれずギリギリの時は、チェックの授業が4週間行われ、それに合格するとギムナジウムへ行ける証明がもらえる。③第4学年でよい成績をとれずレアルシューレ、ハウプトシューレへ行って最初の2年間がんばってよい成績を収めると、第7学年からギムナジウムへ入れる。

< 第17日目 >

11月2日(月) 天候 曇り一時雨 気温 13℃			
宿泊地	ミュンヘン 宿舎 ホリディ・イン・レオポルド		
日程	終日 ミラノ → ミュンヘン列車の旅		
時分	起床 5:00	朝食 5:30	出発 6:00
6:00	ホテル出発		
6:00	ミラノ中央駅発(ミュンヘンまでの国際列車の旅) ベローナ駅(8:10) — ドメグリエーラ駅(8:44) — ロベレート駅(9:44) — トレント駅(10:01) — ボルツァーノ駅(10:30) — ブルサノーネ駅(11:07) — フォルラツァ駅(11:17) ———— < オーストリアへ入る > ———— プレネロブレナ駅 (11:50) — ベルク駅(13:15) ———— < 西ドイツへ入る > ———— コフスタイン駅 (13:25) — ローゼンハイム駅(13:46) — ミュンヘン中央駅到着(14:35)		
15:10	ホテル到着(バスで)		

ミラノはドイツとの戦争で幾度か街が焼かれ、それにめげず復興した都市である。それだけに同じイタリアのローマ市民と異なり、ねばり強く経済力のある豊かなところである。

今日はミラノを後にして、ミュンヘンのアルプス越えの列車の旅である。発車のベルも鳴らないまま滑るように走り出した。こちらでは、発車のベルも、到着駅のアナウンスなど全くなくて、いつのまにか走り出しているといった感じである。高度が上がるにつれ黄葉が微妙に変わり美しかった。アルプスのハイジを思わせる高原が続き、山の上の教会は印象的であった。



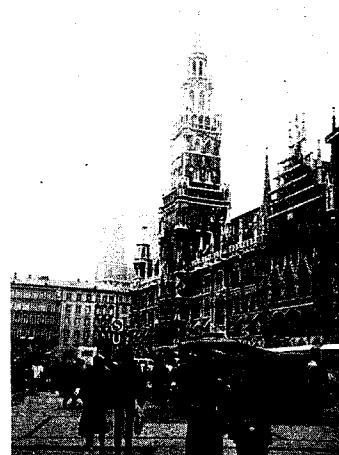
アルプス越えの車窓から

< 第18日目 >

11月3日(火) 天候 曇り 気温 10℃			
宿泊地	ミュンヘン 宿舎 ホリディ・イン・レオポルド		
日程	午前・午後 自由研修、事前研修(P.M. 5:00~)		
時分	起床 8:00	朝食 8:30	出発 9:00
9:00	ホテル出発(自由研修) ・ドイツ博物館 ・新市庁舎 ・Nymphenburg(王城) ・Isartor(イザール門)		
17:00	ホテル帰着、事前研修		
19:00	夕食 Hofbräuhaus(ビア・ホール)		

今にも雨が落ちそうな肌寒いミュンヘンの朝である。人形の時計台で有名な新市庁舎を見学した。さすがに観光客が多く賑わいでいて、その近くには露店が立ち並び、色とりどりの花や野菜、果物を売っていた。

男女を問わず、昼間からジョッキを片手に白ソーセージを食べながら談笑していた。私たちも真似をして巨大な白ソーセージをかじりながらビールを飲んだ。体は暖まるし、外で食べるソーセージの味は格別であった。夕食をHofbräuhaus(ビア・ホール)でとった。無口なドイツ人もここでは羽目はずしていた。



新市庁舎

〈第19日目〉

11月4日(水) 天候 晴 気温 7℃			
宿泊地	ミュンヘン 宿舎 ホリディ・イン・レオポルド		
日程	午前 ミュンヘン市教育委員会訪問	午後 教育文化施設等視察	
時分	起床 8:00	朝食 8:30	出発 9:30
9:30	ホテル出発		
10:00	教育委員会		
12:30	昼食		
14:35	アルテピナコーク美術館		
16:10	ニンフェンベルグ城・庭園		
17:10	ホテル帰着		

久しぶりの晴天、肌をさす快い寒さである。黄葉したポプラ、菩提樹の街路樹が実に美しい。今日は教育委員会の訪問日である。「教師と生徒の国際交換の会」の担当者であるレイナー・デブリッチ氏よりミュンヘン市の教育行政の仕組みと学校制度について説明があった。資料も準備され、筋道だった論理的な話はさすがにドイツ人気質を感じさせられた。その中で、教育は勿論、何事も“集中と解放”が大切であることをユーモラスに語ってくれた。



ニンフェンベルグ城と中庭

〈第20日目〉

11月5日(木) 天候 晴 気温 8℃			
宿泊地	ミュンヘン 宿舎 ホリディ・イン・レオポルド		
日程	午前 学校訪問	午後 自由研修	夜 レセプション

時分	起床 7:00	朝食 8:00	出発 8:30
8:30	ホテル出発 ・学校訪問 (バルトハーザノイマン実業校)		
12:00	昼食 ・自由研修 (新市庁舎周辺散策・ショッピング)		
20:00	レセプション (ホテル・ヒルトン)		

◎学校視察

BALTHASAR NEU MANN REALSCHULE (実科学校)

1. 訪問日 昭和62年11月5日(木) AM 9:10 ~ 11:50

2. 学校の概要

(1) 所在地 Hugo-Walf-Str 70 8000 Miinh-en45)

(創立 1968 校長名 Hern Fritz Shatz)

(2) 教員数 34名(男21名、女13名)他職員4名
その他3名

(3) 生徒数 400名(男150、女250)
4学年 16学級

(4) 授業時数 週30時間(9月15日~7月30日)

3. 視察の概要

午前8時始まりで、45分授業の6時間である。3、4校時の間に25分の休憩があって授業と授業の間の休みはない。従って、午後1時には、殆どの児童生徒は下校し、たくさんの宿題に取り組むことになる。1クラスの人数は25人まで、12から15才までの期間を男女共学で過ごす。卒業後は、職業学校へ74%、テクニカルカレッジへ23%、ギムナジウムへ3%位の割合である。黄葉に囲まれた風格のある学校であった。



授業風景



レセプションでの交流

ミュンヘンでのレセプションは、高級ホテル・ヒルトンで行われた。デンバー、ローマに続いて3回目の最後のレセプションとなる。言葉は通じなくても、心で十分通じ合うことができた。どこでも友好的であった。「我家にお招きしたい。明日時間がとれないか」ドイツの民族衣装を付け、得意の演奏を聞かせたいとのことであった。明日は早朝出発なので丁重にお断りをした。また、レセプションでは、「書道」

による交流の場を設けて頂いた。文字は読めなくても「芸術」は万国共通であった。

〈第21日目〉

11月6日(金) 天候 晴 気温 10℃			
宿泊地	コペンハーゲン 宿舎 インペリアル		
日程	コペンハーゲンへ移動		
時分	起床 7:30	朝食 8:30	出発 10:00
9:00	ミュンヘン大学へ(「森 鷗外展」見学、図書館)		
10:00	ホテル出発(バス)		
10:30	ミュンヘン空港着		
13:25	出発(スカンジナビア航空 662 便)		
14:45	コペンハーゲン空港着		
15:35	空港発(バス)		
15:50	ホテル・インペリアル到着、ミーティング		
16:20	解散、自由研修		

北欧の都、コペンハーゲンに到着した。まだ午後4時前というのに辺りは、うす暗くどんより曇っていた。人影もまばらで、行きかう人たちはもう冬の装いである。交差点の信号機の赤や黄色がいやに寂しく感じられた。「ここでは寒さよりも、暗さに慣れることの方が大変なんですよ」というガイドの言葉が心に残った。北海の向こうにスウェーデンをはっきりと見た時、北欧に来たことを実感した。徹底した福祉国家だからだろうか、ゆったりと落ちついた表情をしていたし、チップもそのまま置いてあった。



アマリエンボルグ宮殿
とその広場(国王の居城)

Ⅳ 教育事情視察を終えて

24日間の長期にわたる海外視察旅行を終えた。貴重な体験の機会に浴し、感慨無量である。研修で得たものは何かと問われれば、一言では答えられないが、今のところ次の3点をあげることができる。①外国が身近に感じられるようになった。帰国して数日後、デンバー空港で風雪のためスリップ事故の様子がテレビで報道されたこと。イタリアでのジブシーの処遇問題の記事が新聞に掲載されていたことなどである。②広い視野で教育問題を考えられるようになった。教育することの原点は、一人ひとりの子どもをどこまで理解できたかである、といえる。訪問した学校は、どこでも25名前後の学級で行き届いた個別指導がなされていた。また、アメリカの先進的な教育方法に比べ、イタリア、西ドイツでは伝統・文化に支えられた教育が行われていたが、どの教師の顔も誇りと自信に満ちていた。国際化が云々される今日、これからの日本の教育を考える基盤を持つことができた。③具体的なこととして、「国語教室通信」(毎週土曜日に出すもの)に「海外視察あれこれ」と題し、連載している。次に、視察旅行の印象を記し、まとめとしたい。

最初の訪問地はアメリカであった。ビルディングの林立する中で、ひときわめだつエンパイヤーステイトビル、イルミネーションに浮かび上がる雄姿は美しく、私の心をとらえた。その雄姿を見ながらブロードウェイの雑踏を闊歩した時、ニューヨークに來たという実感を持つことができた。たしかに、ニューヨークは活力に満ちており、躍動している感じであった。

パリのシャンゼリゼ通りはアメリカのそれと異なり、長い歴史と伝統の重みがあった。車道や歩道は十二分に広く、街路樹のプラタナスはみごとに黄葉し、風情を醸し出していた。落ち葉を踏みしめながらの凱旋門までの一人歩きは格別で、自然とシャンソンなど口ずさみながらロマンチックな気分浸った。

「安いですよ!」「ちょっと待ってね!」、日本人観光客めあての流暢なことばが飛び交う。陽気なイタリア人の一面を見た思いであった。また、一見、容姿が日本人に似ており親近感を持ったが、イタリア人の大らかさというか、楽天的というか、どうも日本人の気質には合わないようである。コロッセオの偉容を見ながらネロの暴虐ぶりを想像したり、カタコンベ（地下墓地）のスケールの大きさに信仰の強さを感じながら、体力にまかせて歩き回った。数々の古代ローマの遺跡を目の当たりにし、今もなお、その文化が継承されてローマ人の心に確かに息づいているのを感じることができた。

ドイツ人は気質的に日本人によく合っていた。楽天的なイタリア人とは対照的に、「真面目」「勤勉」「努力家」であるようだ。学歴を重んじるのか、ギムナジウムを中核とした教育に強い関心を抱いていた。もちろん、日本のように学習塾過多による偏重教育とは全く質を異にしているようであるが、小学校四年生で進路を決めなければならない制度に対し、5・6年生で調整期間を持たせるなど、いずこも、教育制度の改革は大きな問題である。また、ミュンヘン大学の図書館を見る機会を得たが、学生たちがコンピューターに向かい文献の検索に余念がない様子は印象的であった。図書館利用にコンピューターが十分生かされているようであった。

最後に訪れたのは、デンマークのコペンハーゲンであった。夕暮れどき、ホテルに向かうバスの中から見る街並みは、人の影もまばらで閑散としていた。信号機の赤や黄色の光が、いやに寂しげに感じられた。北海の波のうねり、時折白い刃をみせる様相は、北欧の自然の厳しさを少しばかり垣間見ることができた。福祉制度が行き届いた中立国で就学費や入院費、治療費など、ほとんど無料とのことであった。そのことも影響してか、のんびりでゆったりした国民性であるように感じた。

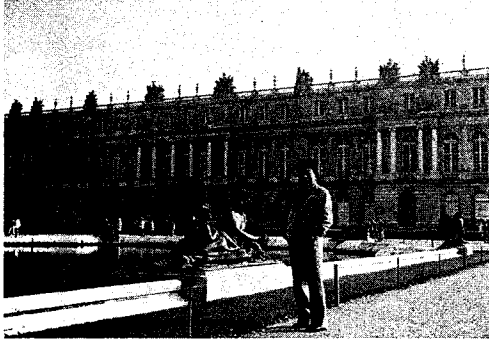
私にとって欧米は初めての地であったので、自分の目とからだで得た体験は貴重なものであった。

また、よいメンバーに恵まれたことも幸せであった。三か国の学校を訪問したが、どこの国も国づくりの基礎としての学校教育に情熱を傾けていた。そして、レセプションにおいて、親しく話し合い“書道”による交流の場を設けて頂いたことは、私にとって得難い体験であった。

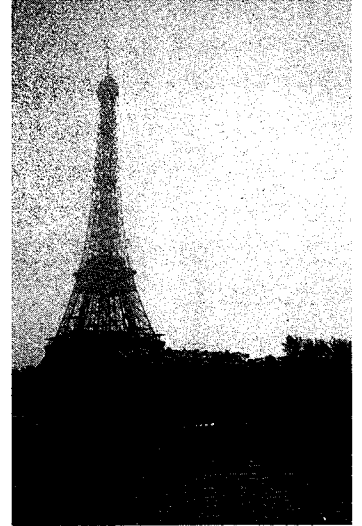
北極圏の刻々と変わる鮮やかな夕映えを見ながら、この研修旅行のフィナーレをかみしめていた。



凱旋門とシャンゼリゼ通り



ベルサイユ宮殿と中庭〈パリ〉



セーヌ川から見た
エッフェル塔〈パリ〉



コロッセオの内部〈ローマ〉



世界貿易センター屋上
から見たマンハッタン島〈ニューヨーク〉



スカラ座劇場〈ミラノ〉



レッド・ロック・パーク
〈西部の町デンバー〉